

研究課題名	非小細胞肺癌術後再発における腫瘍免疫微小環境の変化と免疫チェックポイント阻害薬の有効性に関する検討
研究の意義・目的	進行期非小細胞肺癌の患者さんに対して、肺癌を診断した際の腫瘍組織を用いて免疫チェックポイント阻害薬の効果予測バイオマーカーであるPD-L1というタンパクを測定し、その発現割合に基づいて治療方針を決定しています。また非小細胞肺癌として手術を受けられた後に再発してしまわれた患者さんについても同様に治療方針を決定しますが、バイオマーカーの測定には手術をした際の腫瘍組織を用いています。本研究では、検体採取時期が異なる非小細胞肺癌の進行期の患者さんと術後再発の患者さんとで、測定検体におけるPD-L1発現に基づいて投与された抗PD-1抗体単剤（キイトルーダ®など）の治療効果に違いがあるのかどうか解析します。また、手術の時点の非小細胞肺癌内におけるリンパ球などの免疫環境がと再発時点でどのように変化するかを比較解析します。これらの解析を行うことにより、非小細胞肺癌術後再発患者さんへの最適化医療の追求に寄与することを目的としています。
研究を行う期間	倫理委員会承認後～ 2024年3月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2017年1月～2022年12月に大阪公立大学医学部附属病院で、1次化学療法として抗PD-1抗体単剤治療を開始された局所進行または遠隔転移を有する進行期非小細胞肺癌と診断された、あるいは術後再発した非小細胞肺癌の患者様、および2013年1月～2021年12月までに根治的手術治療を受けられ、2022年12月までに術後再発し、未治療術後再発病変を生検あるいは切除された非小細胞肺癌の患者様が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 試料：気管支鏡検査やCT・超音波ガイド下経皮的生検、リンパ節生検など診断のために行われた検査で採取された生検腫瘍検体や治療のために行われた手術で切除された腫瘍組織検体
試料・情報の他機関への提供	この研究は大阪公立大学医学部附属病院呼吸器内科のみで行い、他の施設に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪公立大学医学部附属病院呼吸器内科のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学大学院医学研究科 呼吸器内科学 研究責任者：松本 吉矢
本研究の利益相反	利益相反の状況については阿倍野地区利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 呼吸器内科学 （担当者氏名）松本 吉矢 電話番号：(06) 6645—3793